

総合計画改定ワークショップ 開催結果(概要)

1. 趣旨

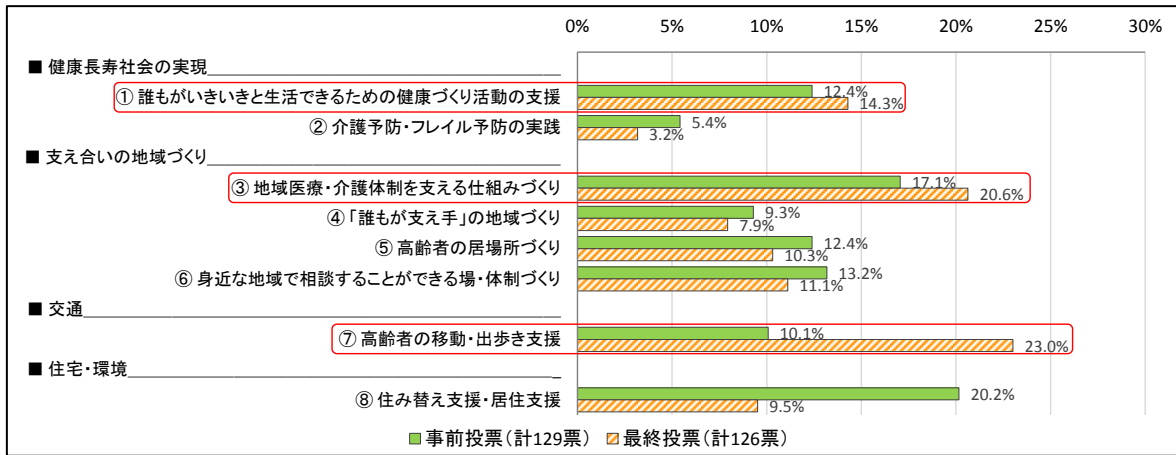
第五次多摩市総合計画第3期基本計画の改定にあたって、これまで3回の総合計画審議会において検討されてきた次期基本計画における「基本的な考え方・重要テーマ」を、「市民とともに作る計画」という考え方のもと、市民の目線で自由に議論し、取り組むべき優先度を判断してもらうもの。

2. 開催概要

Table with 2 columns: Item (開催日時, 開催場所, 参加者, 次第) and Content. Details include dates from August 4-11, 2018, and a list of workshop activities.

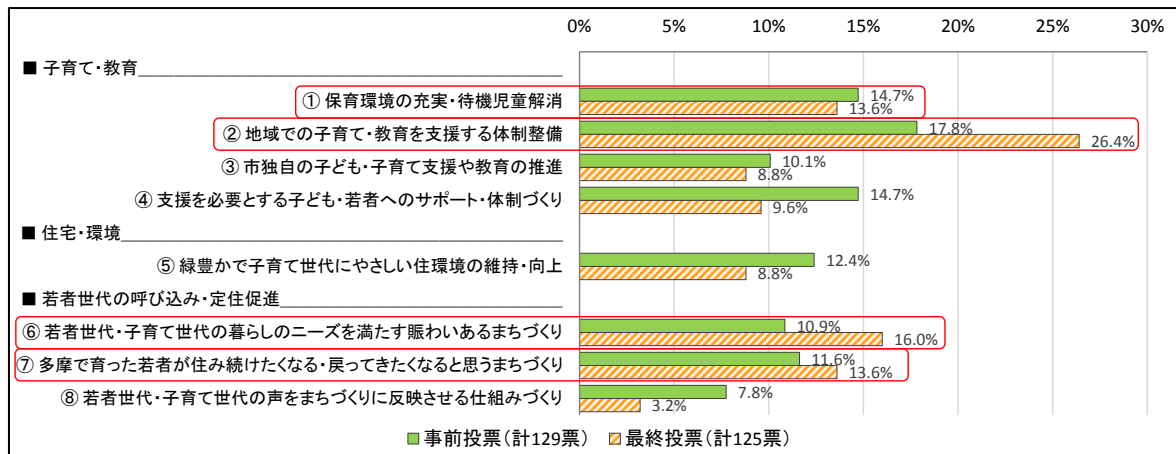
3. 結果

基本的な考え方1. 超高齢社会への対応



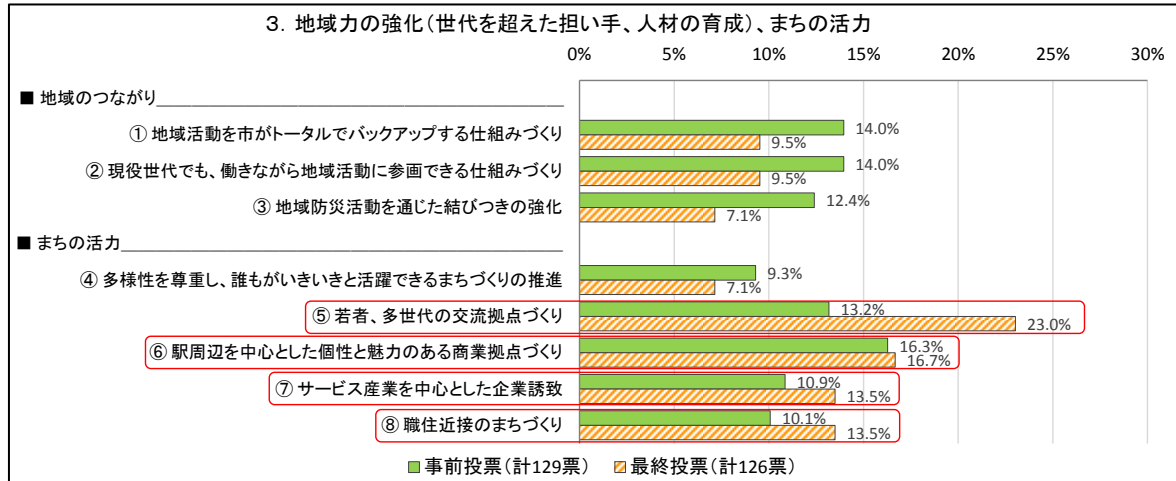
- ＜主な意見＞
・市内は坂道が多く対応が必要。高齢者が移動しやすいよう団地等での歩道、橋、階段の整備・改修が必要。
・高齢者になるとコミュニケーションをとる場が少ないため、高齢者の孤立の予防のため、集まってコミュニケーションできるような場づくり、地域づくりが重要。
・高齢者向け施設の見学会等により、高齢者にもっと関心を持ってもらいボランティアを募集してはどうか。
・スマホやインターネットが活用できないと情報が入手しにくい。高齢者も情報を扱いやすい環境づくりが重要。高齢者向けには従来通りの情報発信も必要である。
・病院等に高齢者専用の時間帯を設ける等して、高齢者が受診しやすくなる仕組みが出来ないか。

基本的な考え方2. 若者世代・子育て世代が幸せに暮らせるためのまちづくり



- ＜主な意見＞
・公園の適切な管理や遊具の充実等による魅力アップが必要。また公園ごとに特徴を付けてはどうか。
・テーマの決まった野球場やサッカーコートが少ない。もっと子ども・若者向けの施設を作っていくべきではないか。
・駅周辺の保育所へのニーズ集中を緩和するため、短時間の保育や駅から遠い園への送迎サービス等を市で運営できるとよい。保育所の充実により子育て世代の受入に繋がればよい。
・子どもと高齢者の交流が少ないため、例えば保育園送迎サービスを高齢者に担ってもらうのはどうか。新たなハード整備ではなく、既存の人材や資源を活用すれば、サービス向上と同時に多世代交流の促進も図れる。
・高齢者や多摩市に多い大学生が子どもと遊んだり教えたりする場や地域のコミュニティづくりを進めるべき。
・地域交流を皆求めている。部活単位から多摩地域等の広い単位まで、様々な地域交流があると盛り上がるのでは。
・若者・子育て世代にデジタル媒体での情報発信をもっと行うべき。情報がどこで入手できるのか分からない。
・都心への長時間通勤等により片方の親が育児に参加できない等、育児に困っている家庭を地域でサポートする仕組みが、働き方改革等とも関連しながら出来ればよい。

基本的な考え方3. 地域力の強化(世代を超えた担い手、人材の育成)、まちの活力



- ＜主な意見＞
・駅の活性化(多摩らしい駅周辺の整備)、地域のつながり(まちづくり・寺子屋)、公園の改善がポイントとなる。
・「わざわざ来たいと思えるまちづくり」として、「企業誘致」「交通整備」「コミュニティ」、更には「場所や盛り上がり」「高齢化」「教育」に関する取組が重要。そのためには地元での雇用の創出、今ある団地や商店街、公園の活用が必要。
・バスの自動運転等を誘致して、モデルとなるようなまちづくりを積極的に進めるべき。
・宿泊施設など、市外から若者等を呼べるようなものが必要。
・産業力の向上による雇用の創出と、高齢者と社会の接点づくりが大切。
・産業力を高めることが重要。産業力が高まれば都市の魅力が上がり、市の収入も増え、自ずと雇用創出、人口流入に繋がる。
・自発的に手を上げなければ高齢者が社会と接点を作ることが難しい。市で仕組みをつくって繋がりを強化する必要がある。